

編集後記

『文学論叢』第四百十三輯は退職記念号にあたり、本号の巻頭には文学部教授の藤田佳久先生（地理学）、国際コミュニケーション学部教授の新形信和先生（比較思想・比較文化論）、文学部教授の玉井力先生（日本史）の略歴と業績を掲載することができた。文学会会員で三月末に定年退職される先生には日本文学とフランス文学の方もおられ、全部で五名であるが、ご本人の意思を尊重し、同意を得られた方三名の分である。藤田先生には貴重な原稿もお寄せいただき、本学名誉教授の安本博先生からも玉稿を賜った。その他執筆者は文学部と短期大学部というように複数の学部にとわたる。

文学部自体には文学部紀要というものはないが、学部をこえた文学会という組織で『文学論叢』を年二回刊行している。翻訳や研究ノートは載せない、論考に限るという決まりがあり、投稿者自身の自覚と責任のもと、教員が学内で論文を投稿する場として貴重な存在である。学術雑誌のほか、講演会の開催や文学会叢書の刊行も活動内容の一環となっている。

文学会の活動の中でも『文学論叢』は中心的な役割を果たす。学会誌を他大学や研究所等に送り、交換ということで相手方の学術雑誌を送っていただく。学内に文学会室という専用の部屋があり、書棚には寄贈を受けた学術雑誌が整然と配架されている。そして、専任のスタッフも勤務して

おり、文学会の事務的な仕事を担当していただいている。現在、学会誌そのものは従来通り冊子形式で刊行しているが、既刊号掲載の論文をPDFファイル化し、ウェブ上で閲覧する試みはこの『文学論叢』でも議論が始まった。時代の流れに合せて『文学論叢』がよりよい方向へ発展することを期待し、そして末筆ながら今年度ご退職なさる先生方のご健勝を心からお祈りし、編集後記を閉じることにする。

（編集委員U）

平成二十三年三月一日 印刷
平成二十三年三月十日 発行

編者 愛知大学文学会

代表者 交野正芳

印刷所 豊橋市小池町
東邦印刷工業所

発行所 豊橋市町畑町
愛知大学文学会

振替〇〇八三〇一―四五六五四